

1 青森県の推計人口（平成17年1月1日現在）…………… 1

県人口	1,449,732人	（対前月 487人減少、対前年同月 9,746人減少）
自然動態	343人減少	（出生者数 879人、死亡者数 1,222人）
社会動態	144人減少	（転入者数 1,275人、転出者数 1,419人）

2 本県の経済動向

（1）経済概況

本県経済の動向は、雇用情勢の一部に明るい動きも見られるものの、需要、生産面は厳しく、依然として足踏み状態にある。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 …… 2
 平成16年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整指数が87.8で、前月比2.2%の低下となり、3ヶ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は92.8で、前年同月比7.5%の上昇となり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。
 （化学工業を除いた指数では、季節調整指数が89.5で、前月比1.0%の上昇（6ヶ月ぶり）、原指数が96.5で、前年同月比7.3%の上昇（2ヶ月ぶり）となった。）
- (2-2) 雇用情勢 …… 3
 平成16年11月の現金給与総額は242,794円で前年同月比2.4%増となった。このうち、定期給与は237,720円で3.6%増となった。総実労働時間は、164.2時間で前年同月比4.2%増となり、所定外労働時間では9.8時間で前年同月比23.2%増となった。
 平成16年12月の有効求人倍率は0.37倍で、前月と同水準となった。
- (2-3) 物価 …… 4
 平成16年12月の青森県消費者物価指数は、99.5となり、前月と比べ0.3%の下落、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 …… 5
 平成16年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースで前年同月比6.4%減の141億7千9百万円となり、既存店ベースでも前年同月比7.0%減となった。
 平成16年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は、2,872台で、前年同月比3.9%の増となり、2ヶ月連続で前年を上回った。
- (2-5) 住宅建設 …… 6
 平成16年11月の新設住宅着工戸数は796戸で、前年同月比4.7%増となり、3ヶ月連続で前年を上回った。
- (2-6) 公共投資 …… 6
 平成16年12月の公共工事請負金額は、前年同月比14.6%増となった。

（3）景気動向指数（平成16年11月分）…………… 7

先行指数	33.3%	（3か月連続で50%を下回った）
一致指数	37.5%	（前月50%の後50%を下回った）
遅行指数	100.0%	（6か月連続で50%を上回った）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成17年1月期）…………… 8

3カ月前と比べた景気の現状判断DI	… 36.7	（前期比0.8ポイント減、15期連続50を下回る）
3カ月後の景気の先行き判断DI	… 39.3	（前期比5.0ポイント減、3期連続50を下回る）

1 青森県の推計人口（平成17年1月1日現在）

【概況】

平成17年1月1日現在の本県推計人口は、1,449,732人で、前月に比べ487人の減少、前年同月に比べると9,746人の減少となった。

○自然動態

出生者数が879人、死亡者数が1,222人で、343人の減少となった。

12月中の統計としては、出生者数が、昭和41年以降で最少となり、死亡者数も昭和41年以降で最多となった。

○社会動態

転入者数が1,275人、転出者数が1,419人で、144人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	対前月増減率		増減数	自然増減数	社会増減数			県外からの転入者数	県外への転出者数	
		男	女			出生者数	死亡者数	転入者数			転出者数
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	
16.1.1	1,459,478	693,077	766,401	-0.028%	-415	-248	896	1,144	-167	1,364	1,531
16.2.1	1,458,897	692,740	766,157	-0.040%	-581	-415	998	1,413	-166	1,334	1,500
16.3.1	1,458,159	692,330	765,829	-0.051%	-738	-296	912	1,208	-442	1,252	1,694
16.4.1	1,452,455	688,993	763,462	-0.391%	-5,704	-243	1,036	1,279	-5,461	4,532	9,993
16.5.1	1,453,207	689,495	763,712	0.052%	752	-160	999	1,159	912	4,749	3,837
16.6.1	1,452,844	689,216	763,628	-0.025%	-363	-242	942	1,184	-121	1,555	1,676
16.7.1	1,452,449	688,905	763,544	-0.027%	-395	-79	985	1,064	-316	1,413	1,729
16.8.1	1,451,562	688,424	763,138	-0.061%	-887	-134	993	1,127	-753	1,921	2,674
16.9.1	1,451,461	688,505	762,956	-0.007%	-101	-249	1,008	1,257	148	2,449	2,301
16.10.1	1,450,947	688,209	762,738	-0.035%	-514	-120	986	1,106	-394	1,618	2,012
16.11.1	1,450,734	688,048	762,686	-0.015%	-213	-258	911	1,169	45	1,791	1,746
16.12.1	1,450,219	687,716	762,503	-0.035%	-515	-300	965	1,265	-215	1,431	1,646
17.1.1	1,449,732	687,374	762,358	-0.034%	-487	-343	879	1,222	-144	1,275	1,419

12月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平7.12	8.12	9.12	10.12	11.12	12.12	13.12	14.12	15.12	16.12
自然動態	出生者数	1,090	1,120	1,060	1,053	1,000	1,015	976	898	896	879
	死亡者数	958	1,116	994	1,048	1,089	1,065	1,192	1,162	1,144	1,222
	自然増減数	132	4	66	5	-89	-50	-216	-264	-248	-343
社会動態	県外からの転入者数	1,578	1,497	1,445	1,554	1,309	1,433	1,497	1,370	1,364	1,275
	県外への転出者数	1,215	1,439	1,272	1,495	1,261	1,385	1,370	1,612	1,531	1,419
	社会増減数	363	58	173	59	48	48	127	-242	-167	-144

※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。

※2 平成16年1月1日から平成17年1月1日までの人口は平成12年国勢調査人口(確定値)を基礎に推計している。

※3 増減数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

※5 これまで社会動態の算定には、県間移動数に加え県内市町村間移動数も含めていたが、県内市町村間移動者数を含めないこととし修正を行なったことから、過去の公表数値と異なっている。

※6 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

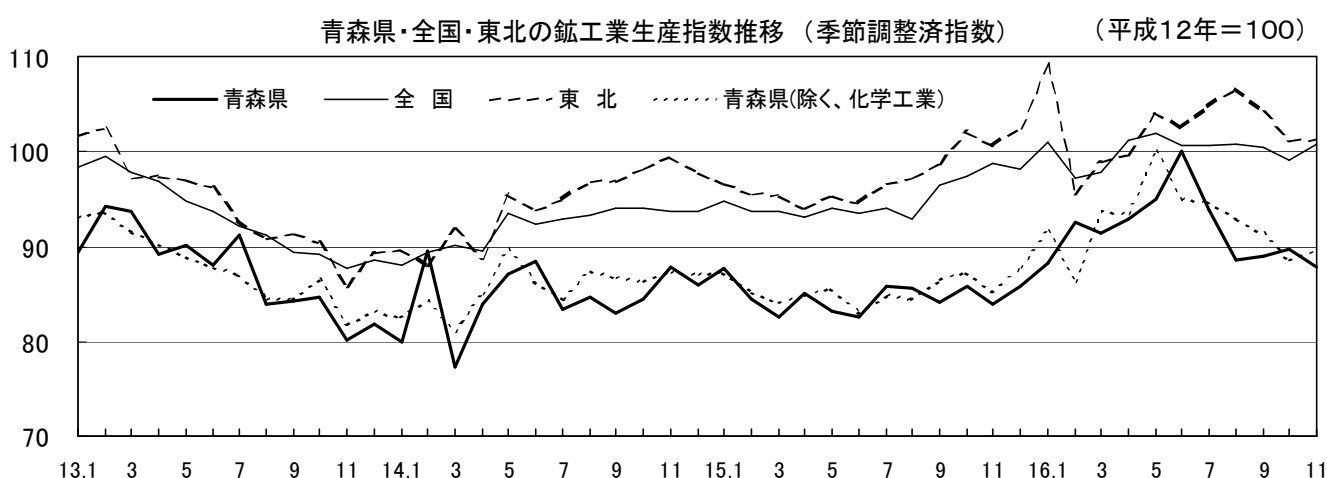
(2-1) 製造業の生産

平成16年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が87.8で、前月比2.2%の低下となり、3ヶ月ぶり前月を下回った。また、原指数は92.8で、前年同月比7.5%の上昇となり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、輸送機械工業、鉄鋼業、金属製品工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、電子部品・デバイス工業、電気機械工業などが低下し、鉱工業全体では2.2%の低下となった。

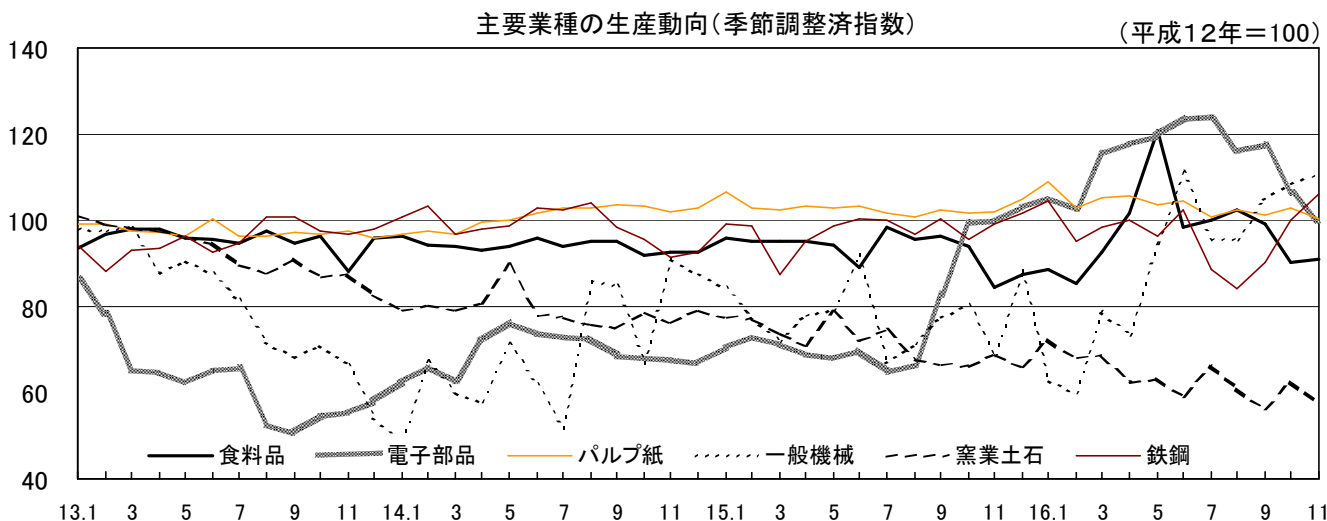
(化学工業を除いた指数について)

季節調整済指数が89.5で、前月比1.0%の上昇(6ヶ月ぶり)、原指数が96.5で、前年同月比7.3%の上昇(2ヶ月ぶり)となった。



◎業種別動向(前月比)

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
輸送機械工業	45.1	4.4	化学工業	-77.6	-96.1
鉄鋼業	6.1	3.0	電子部品・デバイス工業	-6.2	-7.4
金属製品工業	9.4	2.8	電気機械工業	-8.6	-4.6
食料品工業	1.0	2.2	窯業・土石製品工業	-7.8	-2.7
一般機械工業	1.9	1.2	パルプ・紙・紙加工品工業	-2.4	-2.0
			(鉱工業)	-2.2	100.0



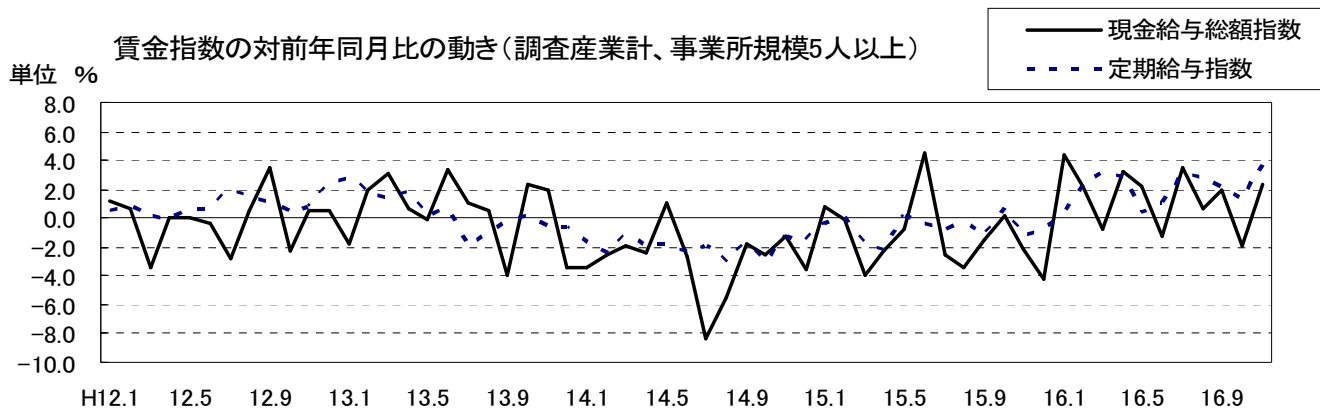
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成16年11月の現金給与総額は242,794円で現金給与総額指数(平成12年=100)では84.6となり、前年同月比2.4%増となった。このうち、定期給与は237,720円で定期給与指数では100.6となり、前年同月比3.6%増となった。実額で比較した定期給与の全国対比は87.1となった。

所定外労働時間は9.8時間で、所定外労働時間指数では114.0となり、前年同月比23.2%増となった。

平成16年12月の有効求人倍率は0.37倍(季節調整済値)で、前月と同水準となった。



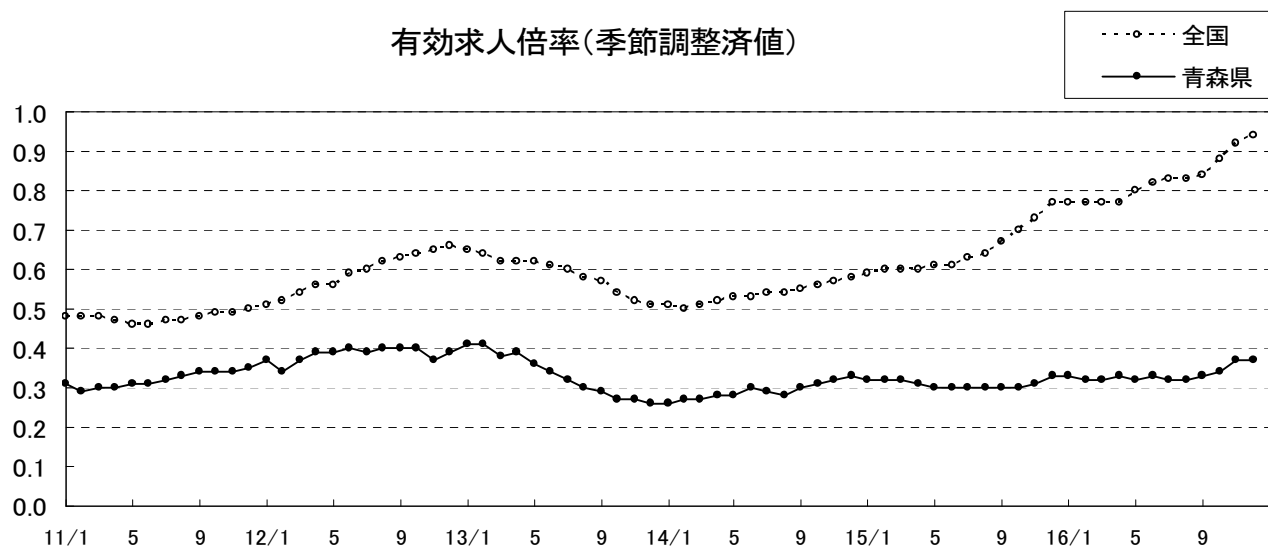
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	242,794 円	292,277 円	84.6	82.7	2.4 %	1.8 %
定期給与	237,720 円	273,048 円	100.6	96.8	3.6 %	-0.4 %
特別給与	5,074 円	19,229 円	—	—	—	—
総実労働時間	164.2 時間	153.5 時間	103.5	99.5	4.2 %	0.7 %
所定内労働時間	154.4 時間	142.8 時間	102.9	99.0	3.2 %	0.6 %
所定外労働時間	9.8 時間	10.7 時間	114.0	108.1	23.2 %	1.9 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



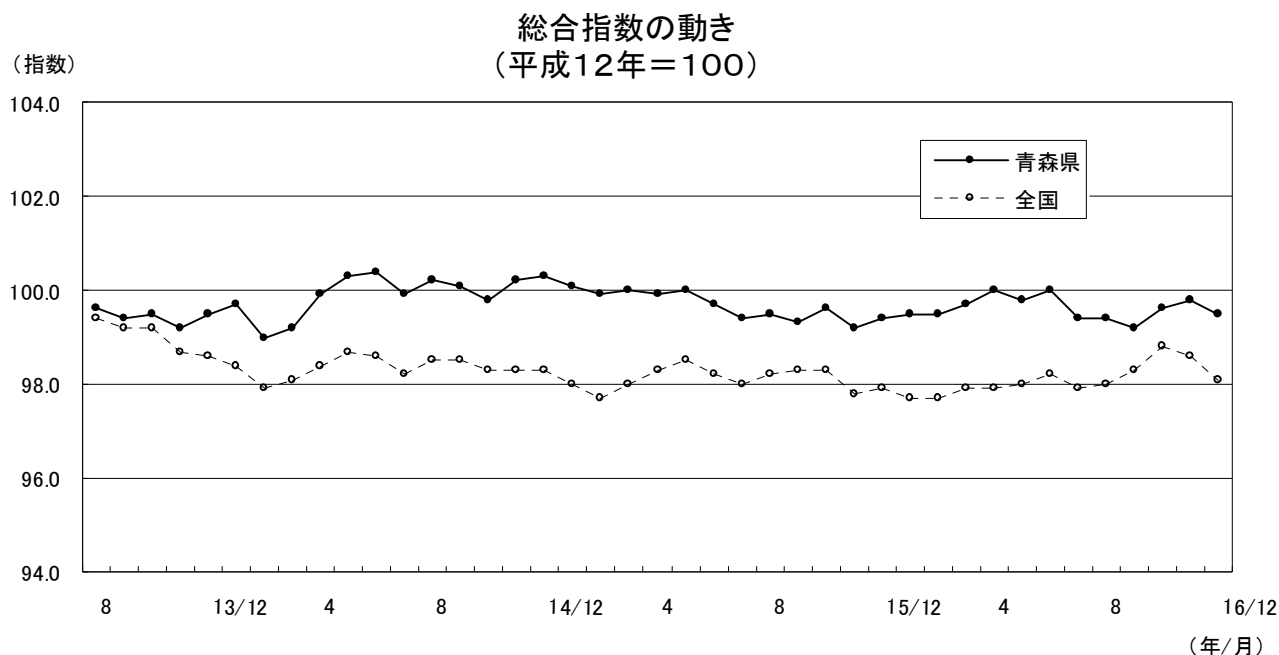
資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成16年12月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で99.5となり、前月と比べ0.3%の下落、前年同月と比べ0.1%の上昇となった。

前月比が0.3%の下落となった要因としては、食料（生鮮野菜）、被服及び履物などが下落したことが挙げられる。

前年同月比が0.1%の上昇となった要因としては、食料（生鮮食品）、光熱・水道（電気ガス代・灯油）などが上昇したことが挙げられる。



10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

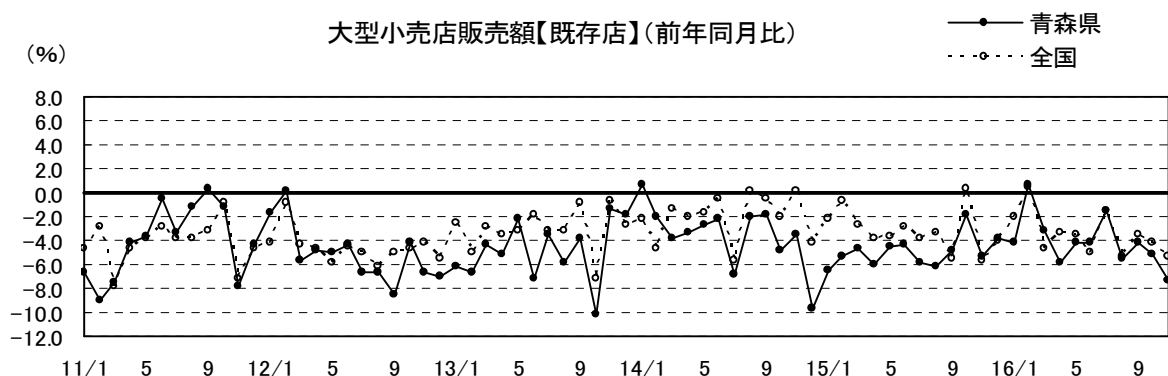
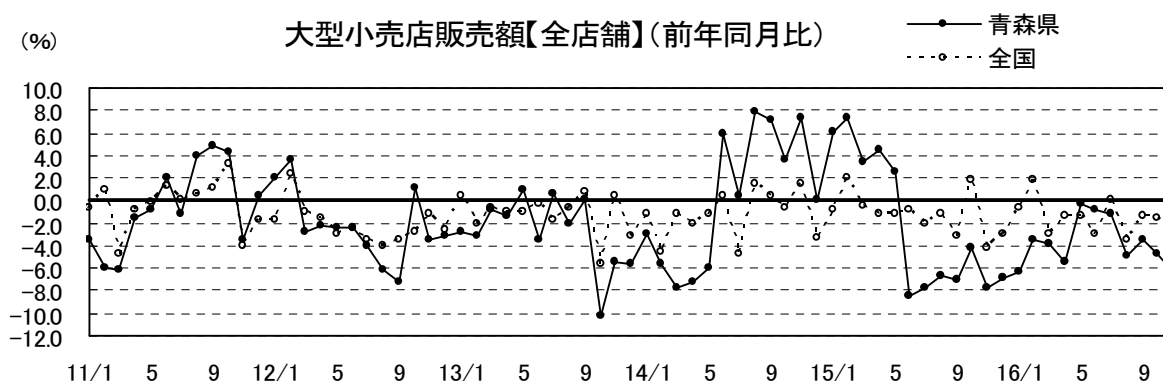
	総合	総合 (持ち家の 帰属家賃を 除く)	総合 (生鮮 食品を除く)	食料	生鮮 食品	住居	光熱・ 水道	家具 ・家事 用品	被服 及び 履き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
当月指数	99.5	98.3	99.5	99.9	99.7	104.8	103.4	88.5	94.0	105.4	97.0	106.2	89.7	102.4
前月比	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 0.9	▲ 4.4	▲ 0.2	0.0	▲ 0.7	▲ 1.3	▲ 0.2	▲ 0.1	0.0	0.2	0.2
前年同月比	0.1	0.1	▲ 0.4	0.8	10.3	▲ 0.4	3.7	▲ 3.7	▲ 4.8	▲ 2.2	0.2	5.3	▲ 0.8	▲ 1.0

資料：県統計分析課「青森県消費者物価指数月報」（速報）

(2-4) 個人消費

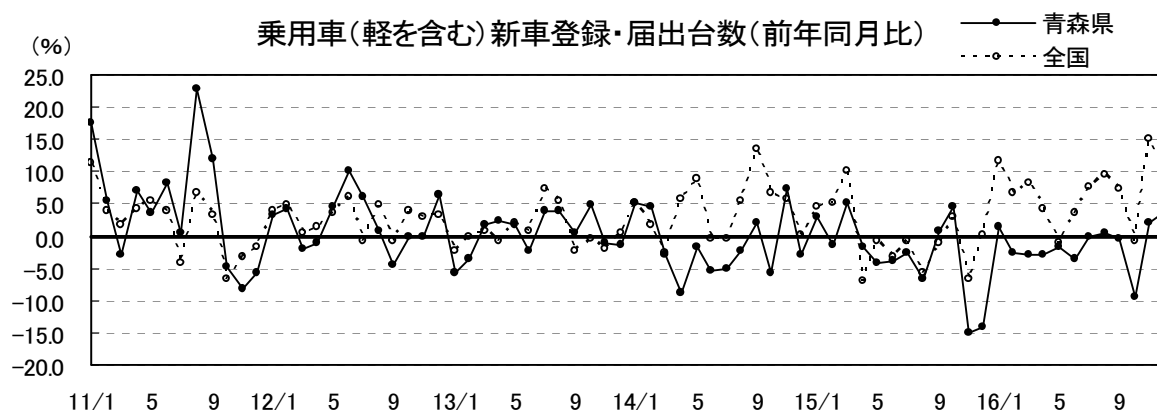
平成16年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースで前年同月比6.4%減の141億7千9百万円で18ヶ月連続のマイナスとなり、既存店ベースでも前年同月比7.0%減と9ヶ月連続でマイナスとなった。内訳でも、百貨店、スーパーとも、衣料品・食料品等すべての項目でマイナスになった。

平成16年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,872台で、普通乗用車が減少したものの、小型乗用車が増加したことにより、前年同月比3.9%増となり2ヶ月連続で前年を上回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

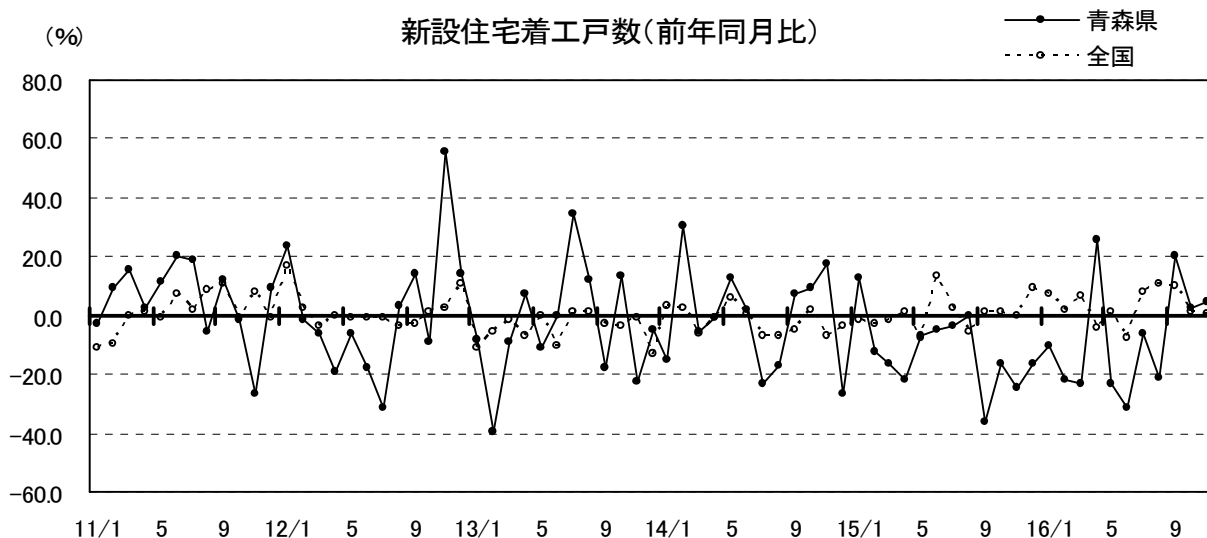


資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」

日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

平成16年11月の新設住宅着工戸数は796戸で、前年同月比4.7%増となり、3ヶ月連続で前年を上回った。



(3) 青森県景気動向指数

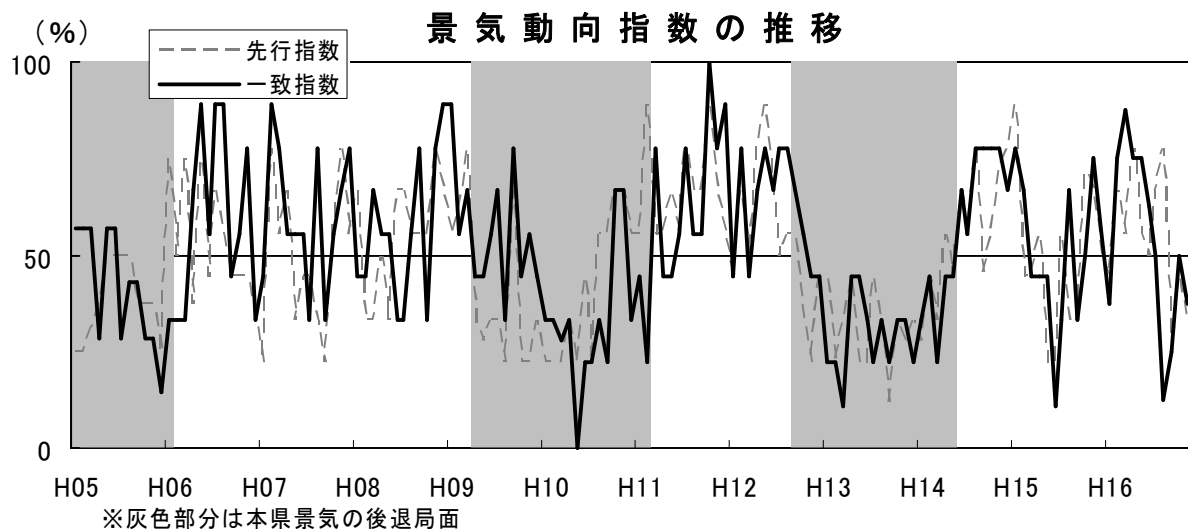
平成16年11月の青森県景気動向指数は、先行指数33.3%、一致指数37.5%、遅行指数100.0%となった。

先行指数は、3か月連続で50%を下回った。

一致指数は、前月50%の後50%を下回った。

遅行指数は、6か月連続で50%を上回った。

11月の一致指数は、生産関連の指標等がマイナスとなったことから、50%を下回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中6指標がマイナス）			
新規求人数（常用）	2か月連続	建築着工床面積（鉱+商+サ）	4か月連続
新設住宅着工戸数	2か月連続	企業倒産負債額	3か月連続
中小企業景況DI	2か月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	3か月連続
		乗用車新車登録届出台数	2か月連続
		入職率（製造業）	2か月ぶり
		生産財生産指数	2か月ぶり
一致系列（8指標中5指標がマイナス） ※1			
有効求人数（常用）	10か月連続	大型小売店販売額（実質）	6か月連続
雇用保険基本手当初回受給者数	2か月連続	大口電力使用量	5か月連続
日銀券月中発行高	4か月ぶり	鉱工業生産指数	4か月連続
		海上出入貨物量（八戸港）	2か月ぶり
		電気機械生産指数	3か月ぶり
遅行系列（7指標中7指標がプラス）			
単位労働コスト（製造業）	5か月連続		
常用雇用指数（製造業）	4か月連続		
輸入通関実績（八戸港）	3か月連続		
信用保証申込金額	2か月連続		
消費者物価指数（帰属家賃除く総合）	2か月連続		
1人平均月間現金給与総額	2か月ぶり		
勤労者世帯家計消費支出（実質）	4か月ぶり		

※1 一致系列の東北自動車道IC利用台数については、青森中央IC、青森東ICの開通による影響が大きいため、当面の間、判定に用いないこととする。

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

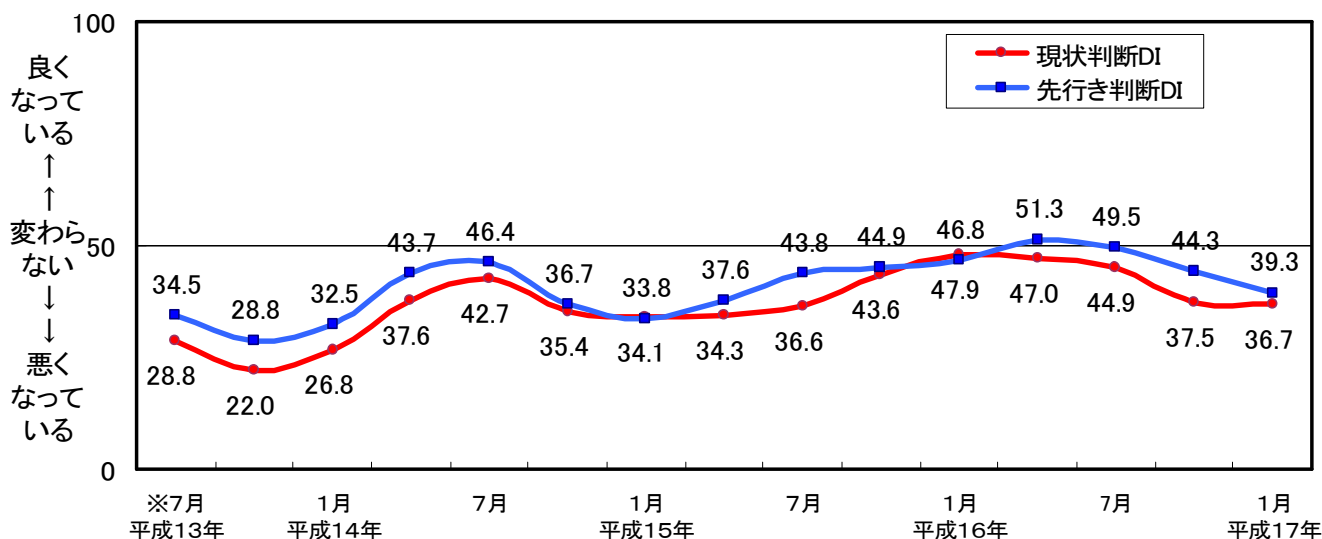
平成17年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月4日～1月20日を調査期間とし、回答率96%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは36.7で、前期調査より0.8ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは39.3で、前期調査より5.0ポイント下回った。

1月期は、現状判断DIは4期連続ポイントが減少し、景気の先行き判断DIは3期連続ポイントが減少し、いずれも横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



※平成13年7月は試行調査

● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が3.1ポイント減少し、「悪くなっている」が3.1ポイント増加していることにより、全体では0.8ポイント減の36.7となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由では、一部のホテル・レストラン等では年末年始に好調に推移しているというものの、多くのウォッチャーは、横ばいかやや悪くなっているのではないかと答えている。</p>
向	<p>前期調査に比べて、津軽地区で5.7ポイント増加したものの、他の3地区では3～5ポイントの減少となった。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が4.2ポイント減少し、「悪くなる」が5.2ポイント増加したことにより、全体では5.0ポイント減の39.3となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由では、これ以上悪くならないで良くなってほしいという期待感を抱いているものの、現実には、景気が回復する要素は無く、マスコミ等で取り上げられている増税や社会保障負担増による不安で、一層景気は冷え込むのではないかと答えている。</p>
向	<p>前期調査に比べて、全ての地区で2～8ポイント減少しており、50を維持していた県南地区についても42.2となり、全ての地区で50を下回ることとなった。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 宿泊客の動向は、鈍化傾向にあるが、宴会や食堂部門はやや良い。(都市型ホテル＝津軽)
- 冬物衣料を中心とした商材の動きが鈍いのと合わせ、企業の経営状況のバロメーターとも思われる歳暮・ギフト関連商品が停滞していると思われる。(広告・デザイン＝東青)
- 可処分所得が決まっていて、どこで使ってもらえるか。税金等のアップもあるので、好転は難しいと思う。(家電量販店＝津軽)
- 当地区でも業況の良いのはほんの一部の企業で、多くは冬のボーナス支給も気持ち程度という感じである。(旅行代理店＝県南)
- 全体的にみると、ほとんど変わっていないと思うが、係数などからみると良くなっているのでしょう。地域的に格差が大きく、青森県は変わらずだと思う。(経営コンサルタント＝県南)
- △購入姿勢がますます慎重になっている。人気ブランドに購入が集中し、それ以外は値引きしても売れない。(百貨店＝東青)
- △入金遅れや、分割入金が増えてきた。(求人情報誌＝東青)
- △平成11年よりだんだん下降しています。特に平成15、16年と、前年より良い月は一度もありませんでした。赤字続きです。今年からは考えを新たにして、最低の線で生活していかなければならないと思っています。(一般飲食店＝下北)
- ×夏場にかけて回復基調が感じられたが、秋口から小売業、不動産の動きが悪くなっている。特に11月12月の落ち込みが激しい。(求人広告＝県南)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 1月はどうしてもお客様が少ないですが、今後期待したいです。(観光名所等＝県南)
- 雇用環境が幾分良くなっている。また、倒産・廃業が一段落しているので心理的に期待感がある。(経営コンサルタント＝県南)
- 良くなるという要素が何も見えない。前年の実績をクリアできれば良しとしなければならない。(旅行代理店＝東青)
- 消費者の懐が相変わらず堅い。ただし、高額品は売れている。(衣料専門店＝津軽)
- 求職者が減っていかなければ、お金の廻りは良くなるとは思えません。(一般小売店＝下北)
- △全体の景気を牽引しているIT産業が、地元には少ない。建設業についても、今年は悪い材料がある。増税がメディアから多く流れており、消費が縮小するのでは。(百貨店＝県南)
- △一般庶民に対する増税が行われ、ただでさえ所得が少ないのに、可処分所得が減るということは、一般消費に影響を与えることは明らかです。(津軽＝人材派遣)
- ×年金含む給与賞与等の目減り及び先行の見通しがたたないため、支出の減少がこの先まだまだ続く。(タクシー＝東青)

記号の意味◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている
資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」